

「長崎水害緊急ダム事業(施設名:浦上ダム)の検証について(案)」
 に対する意見……………(パブリックコメントの意見聴取)

No.	頂いたご意見の概要
1	<p>「既設ダムの有効活用案」が経済的、工期的な観点からみて最良の案だと思います。ただし、当案については、もう少し検討の余地があるのではないかと思いますので提案します。</p> <p>現検討案では、既設の利水専用ダムに洪水調節機能を持たせて多目的化するための方策として、堤体の嵩上げと貯水池掘削に加えて制限水位方式を採用されておられます。</p> <p>貯水池での水中掘削となれば施工性や濁水対策等の難題が考えられます。また、制限水位方式は永久的に人為操作が伴うことで、管理上の負担が重くなるのではないかと懸念されます。</p> <p>したがって、それらの課題を軽減するために次のような検討はできないのでしょうか。</p> <p>①浦上川の川平取水堰からの導水量を増やす。 ②岩屋川から新たに導水をする。</p> <p>なお、現在7案で検討が行われていますが、それらの案を組み合わせた複合案もあってよいのではないかと思います。</p>
2	<p>浦上ダムの検証について意見させていただきます。</p> <p>今回の検証において、様々な治水対策メニューが案として出され検証されていますが、以前計画されていた雪浦ダム、雪浦第2ダムについての検証も行って然るべきではないでしょうか。浦上ダムを治水ダムとし、雪浦ダム、雪浦第2ダムに利水機能を持たせる案があってもよいと思います。</p> <p>また、浦上ダム自体が戦時中に造られた大変古いダムだと聞いておりますが、現計画の「かさ上げ案」により、耐用年数は延びるのでしょうか。また、大規模地震に耐えられる耐震性能が付加されるのでしょうか。長い目で見た場合、最新の技術で新たなダムを造った方が経済的であれば、雪浦第2ダムや、浦上川上流に新たなダムを築造する案も模索するべきだと思います。</p> <p>長期的視野での検証が不足していると感じます。</p>
3	<p>平成23年3月25日、長崎水害緊急ダム事業(施設名:浦上ダム)の検証(案)について説明を受けた。緊急ダム事業は、長崎市の利水専用4ダムを治水機能をもった多目的ダムとして、また、利水専用ダムを治水ダム化により失われる利水機能を中尾ダム、雪浦第2ダム建設として昭和57年度にスタートしている。</p> <p>中尾ダム(新規)、西山ダムは平成12年度に完成、本河内高部ダム(H17完成)本河内低部ダムは、平成23年度に完成予定と聞いている。</p> <p>浦上川の治水対策として7案の説明があった。7案の中でも既浦上ダムの有効活用として堤体を0.8mかさ上げし貯水池内掘削を約45万m³(既浦上ダム周辺の道路整備がよくなったので掘削案)、また、河川整備計画の目標安全度が確保でき、事業コスト面でも一番安価である、既設ダムの有効活用(案)で流域住民の安全・安心のため早急な完成を期待します。</p> <p>理由</p> <p>57年7月の長崎大水害では、長崎市街地は未曾有の被害をこうむった。</p> <p>長崎市街地は傾斜状市街地とも言われるように山に囲まれた狭い平地に人家が密集した都市構造を呈しているため、いったん集中豪雨に見舞われると市街地を縫って走る河川に流水が集中し甚大な被害の発生が想定される。</p> <p>このような被害を防止するうえからも洪水調節を実施する必要があり、現時点で実行可能と考えられる26案について検討を加え、さらに効果が見込まれる7案に絞り「治水上の効果、制度・技術上の実現性、安全性、コスト」の面からより詳細な検討がなされている。</p>

No.	頂いたご意見の概要
3	<p>内容をみると、上述のように市街地を流れ海に達する短い河川で流下能力も不足していることから、満潮時の排水不能、改修の為に用地確保、かさ上げの安全性確保等に問題があり、市街地上流(山間部)においてピーク時に一時的に流下水をストックし調整しつつ徐々に流下させる洪水流量の調節が必要である。</p> <p>これらを総合的に判断すると、利水上の課題が克服されれば、既設ダムを有効活用する第2案が現実的に最適であり、工期的な面も含めて早期に安全対策を図ることが肝要であると思慮される。</p>
4	<p>検証資料を拝読しましたが、詳細に検討され、しかもわかり易くまとめられているのでよく理解ができました。</p> <p>私は、長崎大水害が発生した昭和57年7月23日夕刻に仕事でたまたま県庁付近にいましたが経験したことがないようなすごい豪雨により中島川が溢れる様を経験しました。翌日、夜が明けると中島川や浦上川沿いは一変して家屋、商店街等の被害は惨憺たるものでした。</p> <p>今回、浦上川の治水対策として所要の安全度を確保するための様々な対応の評価結果により、既存の浦上ダムを有効活用する嵩上げ方式(現計画)により洪水調節を行うのが、技術、コスト、実現性、地域社会への影響度合い、環境への影響等からもっとも妥当な計画だと思います。</p> <p>長崎大水害を経験したものとして、浦上川沿いの方々が子々孫々まで安全で安心した暮らしができ、都市機能がマヒしないためにも、早期完成されることを強く望みます。</p>
5	<p>昭和57年7月23日、私が長崎土木事務所勤務していましたがその日、退庁時間を前に大雨洪水警報が発令され、私は式見ダムの統監室で、警報待機に入りました。雨量レーダーで監視しておりましたら、レーダーを真っ赤にして五島方面から長崎に向かって雷雲が近づいてきました。窓を開けると土木事務所の電車通りは川となって車は浮いて流れ、電車の乗客は土木事務所の2階へ運転士共々避難してきました。雨雲は稲佐山を隠し、地表に着く位まで低くたちこめていました。空は夏の夕方でありながら深夜のように真っ暗な中で、稲光がピンク色に染め、雷鳴とともに、そら豆大の雨粒がアスファルトをはぎ取るような勢いで降りつづけました。</p> <p>それからの長崎市内はパニック状態となり、深夜0時過ぎには1,000名を超える行方不明者がある事を放送していました。この日のことは昨日の出来事のように鮮明に記憶しています。</p> <p>被災後、県では知事の諮問委員会が立ち上げられ、大災害の尊い教訓と反省に立って、防災対策の上に立った街づくり「防災都市構想」が示されました。浦上川の治水対策としては治水ダムと河川改修による計画がなされ、新しいダムサイトが無いことから浦上ダムを治水ダム化することを前提として河川改修の計画が行われました。</p> <p>すでに河川改修は完成しておりますが、浦上ダムを治水化する「長崎水害緊急ダム事業」は被災後30年が経過した現在でも手付かずのままです。尊い犠牲を教訓に災害の無い街づくりの目標が、長崎大水害の経験者が激減・高齢化していく中で、すでに復旧・復興事業は完了し、長い年月の中で中断される事は極めて危険であると思います。早期完成により災害の無い防災都市を構築して頂き初期の目的を完遂していただきたいと思うのであります。</p> <p>そもそも緊急治水ダムはその名が示す通り緊急性を伴う事業で、元来河川改修と一体として効果を発揮する水系一環の治水事業であったはずであり、河川改修のみでは治水効果は不十分であり、長崎水害緊急ダム事業は、浦上川水系の下流域を防護する重要な最優先されるべき事業であると確信します。</p>

No.	頂いたご意見の概要
5	<p>現在わが国では、これまで経験したことの無い東北関東大震災の国難に直面しております。本県でも、これまで諫早大水害、長崎大水害、雲仙岳・噴火災害と幾多の災禍に見舞われてきましたが関係者の並々ならぬご努力により克服されてきました。災害の発復旧・復興にはたくさんの方の尊い犠牲を伴い、長崎大水害を経験した当時の長崎市民の、再度災害の防止と安全な街づくりへの思いがあります。</p> <p>ダム事業はともすれば長い月日を要する為、為政者の交替や、一部世論に翻弄されがちですが、真に長崎市の防災都市を見据えた事業の推進を願うものであります。</p>
6	<p>長崎市南部市街地を貫流する中島川と西山川との合流点付近に住んでいます。中島川においては、長崎大水害後、眼鏡橋付近のバイパス工事、中央橋架け替えなどの河川改修が2年前に完成しています。</p> <p>上流域に西山ダムと本河内高部ダムは完成しています。来年度、本河内低部ダムの治水化の工事が完成すれば、長崎大水害を契機とした中島川の治水対策は完了します。</p> <p>一方、長崎市北部市街地の中心河川である浦上川においては、長崎大水害後、河川改修は一気に進捗しました。</p> <p>しかしながら、浦上ダム下流から大橋付近においては、街中にある河川の宿命として河川幅をそのままに深く掘り込むことで河積を確保しているため、護岸が高く、河床は岩盤が露出しています。また、護岸に建物が密接しています。洪水ピーク時における洪水の破壊力が大きいことが想定されます。北部市街地を守るための浦上川の治水対策として、浦上ダムの治水化を残すのみです。</p> <p>ただでさえ、少ない河川沿いの平らな土地を都市設備や住宅が占める長崎市市街地ではダムによる治水化は不可欠です。 浦上ダムの早急な治水化をお願いします。</p>